



災害に備える！キャンプで使える！

防災アウトドア入門【3】



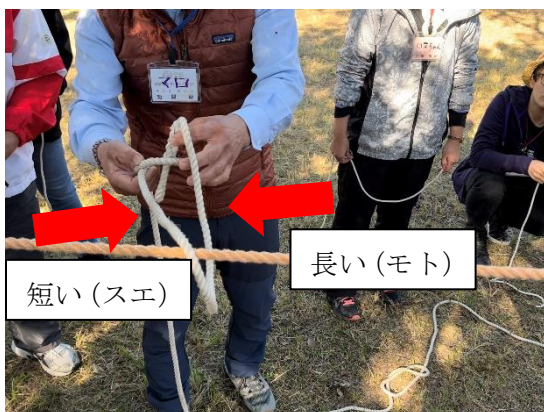
◆ 楽しく学ぶ・自分の身は自分で守る・立場の違う人と協力する

第3回授業テーマは、「ロープワーク・ターピング技術を学ぶ」です。今回は、長浜地区の鎮守の森公園がフィールド。受講生それぞれがロープワーク・ターピングに挑みました。前回同様、特別ゲストとして、南海中学校のNSP（南海サバイバルプロジェクト／防災に関する活動を行う部活）の生徒さんも参加してくれました。

まずは、園内でサークルを作りアイスブレイクがスタート。菊間先生から教室での3つのルールが提案されました。

- ①「楽しく学ぶ」
- ②「自分の身は自分で守る」
- ③「立場の違う人と協力する」

これらのルールを認識しながら、『広い視野を持ちましょう』と、菊間先生。次に、「最近のトピック」を一人一人が発言していきます。授業3回目になると、受講生同士の仲間意識も高く、誰かの発言にツッコミを入れる場面も垣間見え、開始早々、盛り上がりました。協調性を養うことで、災害時の連携がスムーズに行えるというメリットがあります。自分の周囲を見渡せる余裕こそ、災害時における迅速な行動に繋がります。



◆ もやい結び

いよいよロープワークの講義に入ります。まずは、基本中の基本である「もやい結び」に挑戦。ロープワークは、長い方の端を「モト」、短い方の端を「スエ」としておくと分かり易いと指導が入りました。何かに括る際は、長い方と短い方を明確に分けておくのが重要です。



①



②



③

- ① 「モト」と「スエ」を明確に分けたら、「モト」に作った輪っかに「スエ」の端を通します。
- ② 「モト」と「スエ」を引っ張ります。
- ③はい、完成！！「ロープワークはカタチで覚える」ことが重要と菊間先生からのアドバイス。早速、もやい結びに取り組む受講生たち。

◆とっくり結び（かのか結び）



①



②



③

- ① あらかじめ輪っかを2つ作っておきます
(赤矢印)。
- ②重ねた2つの輪を対象物に通します。
- ③両側を引っ張ると、スエ同士が輪っかの間から
出てくるとい構造の結び方になります。
とっくり状のものを吊るすのにとても便利な結び
方です。防災やアウトドア時によく使う結び方
です。

◆自在結び



①



②



③



④



⑤



⑥

最後は、自在結びです。①長さが調整できるので災害時やアウトドアで、雨が降り服が濡れてしまった時など服をかけるのに役立ちます。②ロープをだらんと垂らし③1つの輪っかを作り、中からスエを抜きます。④引っ掛ける部分を専門用語で「ヒッチ」と言います。⑤ちょっと離れたところに輪っかを作り2回巻き付けます。⑥最後は、反対側に抜いて垂らしたら完成です。自在結びの特徴は、締めて引っ張るテンションを自在に操れる長所があります。雨を吸った服は重いので、ある程度テンションを強めたところでキープするのが推奨されます。

臨機応変に出来るロープワークを学んだらいよいよ・・・。

◆ ロープワーク・ターピングミニ大会

さあ、教室も終盤に差し掛かってきました。ここから3グループに分かれて、ロープと竹とビニールシート、ペグ（杭）のみを使用し、即席タープ作りです。学んだことを一気に復習出来るチャンス。一方でロープをキッチリ結ばなければ、完成には至りません。ここで受講生の顔色に緊張が走ります。しかし、先生は待ってくれません。準備もそこそこに「よーい、スタート」。教室初回から、時間との闘いをイメージしてきました。災害時に迅速な行動が出来るのか。頭の中でイメージを持ちながら、受講生同士で声を掛けていきます。



タープを張るために、まずは全体の風向きを確認する必要があります。できるだけ風の煽りを受けない方向を見定め、設置場所を決めます。しかし、この日は天候には恵まれたものの、海風が四方八方から吹いてくる悪条件。場所が少し変わるだけで、風の方が違います。風を読む力が試されます。設置場所が決まったら、まずは支柱を2本立てます。



この作業が非常に重要。全体のタープの骨組みは、わずかに竹2本です。少しでも力点がズレると倒壊の恐れがあり、それぞれのグループは、この作業に時間を要しました。支柱を立てたら、あとはペグ（杭）を打ち込み、自在結びでロープのテンションの強弱を決めていきます。時折、強い風が襲ってきます。設営途中に支柱が倒れ、振り出しに戻るグループが続出。

しかし、そんな状況にも受講生同士が手を差し伸べていきます。災害時に冷静な判断が求められる際、こうした協力した行動が大切です。



さあ、時間を全て使い果たし、何とか3グループともに完成。風との奮闘で、ある受講生は「何とか風に勝ったあ〜。」と歓喜の表情を見せしてくれました。受講生たちの防災意識や仲間意識がどんどん上がっていくのが垣間見えた瞬間です。

最後は、それぞれのグループに先生から講評をいただきました。「完成度に上手い下手はあるものの、各グループが一丸となってターピングする姿はとても良かった。自分の身は自分で守りましょう。災害の現場は、常に立場の違う人たちで入り乱れます。そこで自分が率先して出来ることは何か？今一度、よく考えて行動していきましょう」と締めくくり、本日の講義は、

無事に終了しました。

◆ 次回予告

次回の教室は、「マイクロ太陽光発電システムをつくろう」。自分自身でライフラインを確保することを学んでいきます！

次回も受講生さんの「学びと実践」の向上に目を向けながら、一緒に学んでいきます。